



安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ジエチルアニリン
製品コード	DEA
会社名	株式会社 三星化学研究所
住所	京都市北区上賀茂北ノ原町 14 番地
担当部門	開発・技術部
電話番号	075-781-1177
緊急連絡電話番号	075-781-1177
FAX 番号	075-701-7227
推奨用途及び使用上の制限	塩基性染料の原料

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	
引火性液体	区分 4
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分 4
急性毒性（吸入：ミスト）	区分 4
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2（中枢神経系）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 2（血液）
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期（急性）	区分 2
水生環境有害性 長期（慢性）	区分 2

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
可燃性液体
飲み込むと有害
吸入すると有害
中枢神経系臓器の障害のおそれ
長期にわたるまたは反復ばく露による血液の障害のおそれ
水生生物に毒性
長期的影響により水生生物に毒性

注意書き
安全対策

炎や高温のものから遠ざけること。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
取扱後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

応急措置

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。
火災の場合には適切な消火方法をとること。
飲み込んだ場合：気分が悪い時は医師に連絡すること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、気分が悪い時は医師に連絡すること。
ばく露した時、または気分が悪い時：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

保管
廃棄

漏出物を回収すること。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

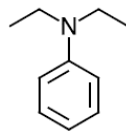
3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名または一般名
別名

化学物質
N,N-ジエチルアニリン(N,N-Diethylaniline)
N, N - ジエチルベンゼンアミン(N,N-Diethylbenzenamine)、
ジエチルフェニルアミン(Diethylphenylamine)、フェニルジ
エチルアミン(Phenyldiethylamine)

分子式 (分子量)
化学特性 (示性式又は構造式)

C₁₀H₁₅N(149.23)



CAS 番号
官報公示整理番号 (化審法・安衛
法)
濃度又は濃度範囲

91-66-7
(3)-114
99.0%以上

4. 応急処置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる
こと。

皮膚に付着した場合
目に入った場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けるこ
と。

飲み込んだ場合

気分が悪い時は医師に連絡すること。
口をすすぐこと。

予想される急性症状及び遅発性症
状

吸入：紫色(チアノーゼ)の唇や爪、紫色(チアノーゼ)の皮
膚、痙攣、めまい、息苦しさ、嘔吐症状は遅れて現われるこ
とがある。

医師に対する特別注意事項

皮膚：発赤、吸収される可能性あり！

ばく露の程度によっては、定期検診を勧める。

アニリン[ICSC0011]も参照のこと。

5. 火災時の措置

消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水、水噴霧
特有の危険有害性	熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。
	激しく加熱すると燃焼する。
	火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移さない。
	安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	ばく露を防止するため、装置の密閉化又は局所排気装置を設置すること。また、取り扱い施設内に本物質の蒸気が滞留しないよう全体換気も行う事。
安全取扱い注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 炎や高温のものから遠ざけること。
	適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
	屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
接触回避	
保管	『10. 安定性及び反応性』を参照。

技術的対策	消防法の規定に従い、危険物第 4 類第三石油類非水溶性液体として、適切な施設内で保管する。
混触危険物質	『10. 安定性及び反応性』を参照。
保管条件	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産衛学会	未設定
ACGIH	未設定
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
物理状態	液体
色	うす黄ないしうす茶色
臭い	刺激性
融点/凝固点	-38°C (GESTIS)
沸点又は初留点及び沸点範囲	216°C (GESTIS)
可燃性	有
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	92°C (クリーブランド解放式, 弊社データ)
自然発火点	630°C (ICSC)
分解温度	データ無し
pH	データ無し
動粘性率	データ無し
溶解度	139 mg/l (25 °C) (GESTIS)
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	3.31 (HSDB)
蒸気圧	0.2 hPa (20°C) (GESTIS)
密度及び/又は相対密度	0.93 g/cm ³ (20°C)(GESTIS)
相対ガス密度	5.15
粒子特性	対象外

10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	加熱すると分解し、窒素酸化物を含む有毒なヒュームを生じる。
避けるべき条件	加熱

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットの LD₅₀ 値=606,782,720 mg/kg(IUCLID (2000))に基づき、区分 4 とした。

経皮

ラットの LD₅₀ 値>5000 mg/kg(IUCLID (2000))に基づき、区分外とした。

吸入

気体

GHS の定義における液体である。

蒸気

データなし。

ミスト

ラットの LC₅₀ 値、1.92 mg/L(IUCLID (2000))に基づき区分 4 とした。

皮膚腐食性・刺激性

確かなデータが得られなかった。分類できない。

眼に対する重篤な損傷性/刺激性

確かなデータが得られなかった。分類できない。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データ無し。分類できない。

生殖細胞変異原性

確かなデータが得られなかった。分類できない。

発がん性

データ無し。分類できない。

生殖毒性

データ無し。分類できない。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

ラットの試験で、経口投与 (LD₅₀; 720 mg/kg) によりチアノーゼ、感覚の失調、掌蹠攣縮などの報告、また、吸入試験 (LC₅₀; 1.92 mg/L)による運動失調や振戦などの報告(以上、IUCLID (2000))に基づき、区分 2 (中枢神経系) とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

ラットの経口投与による試験 (OECD TG407) において、全投与群 (28 日間 : 10、50、250 mg/kg/日 : 90 日換算 3 mg/kg/日) で脾臓やクッパー細胞のヘモジリン沈着、脾臓における髄外造血や充血などの報告(IUCLID (2000))に基づき、区分 1 に該当する用量だが、リスト 2 のデータであることから区分 2 (血液) とした。

誤嚥有害性

データ無し。分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期 (急性)

甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC₅₀ = 1.3mg/L (AQUIRE, 2010) から区分 2 とした。

水生環境有害性 長期 (慢性)

急性毒性区分 2 であり、急速分解性がない (難分解性、BOD による分解度 : 0% (既存点検, 1977)) ことから区分 2 とした。

オゾン層への有害性

データ無し。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地

方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制	
国連番号	2432
国連品名	N,N-DIETHYLANILINE
国連危険有害性クラス	6.1
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
国内規制	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
特別な安全上の対策	移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令

消防法	第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体（法第2条第7項危険物別表第1）
船舶安全法	毒物類・毒物（危規則第3条危険物告示別表第1）N,N-ジエチルアニリン
航空法	毒物類・毒物（施行規則第194条危険物告示別表第1）N,N-ジエチルアニリン
食品衛生法	規格基準告示別表第1第2表 添加剤

16. その他

参考文献	各データ毎に記載した。
------	-------------

<記載内容について>

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取扱いには注意してください。なお、注意事項については通常の実施を前提としたものですので、特別な取扱いをする場合には、さらに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。